

## 令和6年度第1回JCHO病院新宿地域協議会議事概要

日 時：令和6年6月18日（火）13：00～14：00

場 所：JCHO 東京新宿メディカルセンター 本館2階 講義室

出席者：鈴木委員（健康部健康政策課地域医療係）

春日井委員（新宿区笹笥町高齢者総合相談センター）

秋山委員（白十字訪問看護ステーション）

山田委員（新宿区町会連合会）

津吹委員（新宿区笹笥町管内町会連合会役員）

東京新宿 MC： 関根委員、石井委員、吉浪委員、小野委員

東京山手 MC： 矢野委員、大竹委員、野村委員、三浦委員

司 会：東京新宿メディカルセンター院長 関根信夫

### 議事概要

#### 1. 開会

○関根委員

院長期間の半分はコロナでした。落ち着いてはきましたが無くなっておらずゴールデンウィーク後も少し増えています。高齢者のコロナ患者の入院が多く、コロナ後遺症も問題になっている昨今ですが、本日もどうぞよろしくお願いいたします。

#### 2. 委員の紹介

（各委員より自己紹介）

#### 3. 両施設の取組について

○東京山手メディカルセンター

大竹委員：スライド資料により説明(スライド：新宿地域協議会資料令和6年度第1回)

○東京新宿メディカルセンター

小野委員：スライド資料により説明(スライド：JCHO 東京新宿メディカルセンターからの報告)

#### 4. 意見交換

○山田委員

地域で連携していることがよく分かりました。相談センターの重要性も理解しました。利用する立場になったら利用したいです。もっとみんなが知っていればと思うので、発信していただければ幸いです。

#### ○津吹委員

中学校のハローワークに講師としてのご協力、阿波踊りにもご協力ありがとうございました。新宿医師会とのコラボで、2024年5月26日認知症の講座を開催し、300名の参加がありました。昨今医療は非常に関心が深いテーマです。箕苧地区でも定例会があり、健康講座を開催することとなったので、新宿MCにもご協力いただければ幸いです。失礼ながらお願いします。新宿MCの広報誌「大江戸津久戸よろず診療所かわら版」を送付していただいておりますが、大きいので掲示がしづらいため、A4判、1枚などになるのでしょうか。

#### ○秋山委員

皆さんがハードルを乗り越えて頑張っているという様子の報告を見て嬉しく思います。一つだけ質問なのですが、山手MCの報告の14ページにある入院前から退院までの支援のプロセスが気になりました。在宅療法について、配布した資料によると、新宿区は若い人たちが一定期間働いて転出していくという構造のため、子育てがしにくい、介護などの担い手が不足していることと、必要な限り自宅で過ごしたい方が多いことが特徴です。それをかなえるために、病院も在宅医療も頑張っております。コロナの時期を超えてこのような結果ができるということは、地域のつながりと支援が必要と感じます。一人暮らしでも望めばかなえていきたいです。6月25日の暮らしの保健室勉強会もぜひ申し込みお待ちしております。

#### ○野村委員

当院の「入院前から退院までの支援のプロセス」への質問ありがとうございます。退院に必要な方をピックアップし、退院調整看護師と協力して実施しています。実際の生活を見てよかったとの感想が多く聞かれますので、機会を増やしていきたいです。病棟看護師も勉強のために、かかわるようにしていきたいです。

#### ○春日井委員

JCHO病院は入退院時早めに連絡をくださるので、私共いつも調整をする上でとても助かっております。今後ともよろしくお願いします。

#### ○鈴木委員

先ほど新宿MCの報告でありましたACPですが、私もACPの啓発をしようと考えており、本日皆様に人生会議の冊子をお配りしました。また、コミュニティー5という雑誌を持ってきております。この雑誌を使用して地域の皆様に啓発を行っております。ACPは病院で日々勉強会など様々な機会があると思いますが、話し方や声掛けのタイミングなど各病院でも苦労されているというのを聞いて、もっと早く様々なことを知った上でいざというときには伝えられるというようにしていただけたら嬉しいです。今年8月から聖母病院とコラボして学習会を実施します。詳細はこれから決めますが、上手くいけば地域全体に広げていければと考えています。ACPについては、重要だけど知られておらず、65歳以上の

80%は知らないというアンケート結果もあり、もっと知りたいと一生懸命啓発しています。がん患者さんのウィッグのご案内も配布しておりますが、60件ほど請求がありました。これをきっかけに相談につながれば嬉しいです。病院と連携をとりながら支援していきたいと考えます。災害医療としては「新たに区緊急医療救護所を設置」のチラシを配布したとおり、緊急医療救護所として災害拠点病院の敷地内及び近接地に救護所を設置する取り組みを進めています。来年度から順次実施していきます。

## 5. 閉会

○矢野委員（山手）

人口ピラミッドは新宿区は日本全国と比べてもだいぶ変わっています。高齢者の比率が少ない、独身の若者が多い、出入りが激しいです。そのため、ほかの区と同じ進め方では対応が難しくなります。ただ、その対応をしていかないといけないと思います。新宿MCの認知症の取り組みは、新薬を使う取り組みもあるようで、がんと認知症対策が今後医療のメインとなっていくように思います。それに向けて一人暮らしの高齢者に対応していきましょう。

以上にて閉会となる。